

## 対バングラデシュ関係修復

( Mending Fences )

好関係回復に向けて Awami League に接触中だが微妙な問題あり

2ヶ月前に在 Dhaka 総督事務所高官をバングラデシュ政府のカウンターパートが土産を持って訪れた。贈り物シーズンは過ぎており、両国は未だギクシャクした関係にあったのでインド側は驚いた。その土産物は剥き出し包装無しの、インドが手配中のテロ犯で、数日後に両国国境上の Petrapole の埃っぽい地点に土産物が到着した。

Sheikh Hasina 首相率いるアワミリーグ現政府はインドの国家安全問題に気を使ってはいたが、インドが追求中のテロ犯が引き渡されたのは初めてである。

それ以来、インドは北東地域の反抗グループのミリタント多数を含む「package – 捜索中テロ犯のコード」をバングラデッシュに渡している。ミリタントの一部は勿論、パキスタン根拠の Lashkar-e-Toiba 所属である。当局は口を閉ざしているが、「我々はテロリスト・キャンプ 97 箇所をバングラに与え、バングラは Chittagong と Mymensingh の幾つかのキャンプを襲撃してきた。初動は鈍かったが、進展中だ」とバングラデッシュが協力してきたことをインド情報局高官は確認している。

何がこの展開を齎したのか、何故これがインドの国家安全に重要なのか？ ハシナ女史率いる現政府はインド国内のテロを終わらせたいと望む穏健派であり、又インドとの友好的関係は有益だと理解している。4096 km になんなんとするインドとの国境、国家安全・貿易・交通・水利を含む諸問題、があるので、インドの戦略上バングラデッシュは重要な位置を占めている。両国国境線は僅か 800km のみフェンスされており、多くの反インドグループはバングラに隠れ家を持っているので Dakha の友好的な政府はインドの国家安全上で枢要なのである。加えて、国際舞台での活躍には先ず近隣関係を良くすることが第一歩だとインドも理解している。

この動きは、9月8日にバングラデッシュの新任外務大臣 Dipu Moni がデリーでインド外務大臣 S.M.Krishna との面談に拡大された。インドはバングラ政府に謝意を表しながら、ULFA のリーダー Paresh Barua と Anup Chetia を含む反インドグループリストのトップ 10、に関するインドの関心を示した。「我々の関心事を表明し、バングラデッシュはバングラ領土内で反インド活動を許さないことを保証した」と Krishna は India Today に語っている。

インドが Barua が Kamruz Zaman Khan 名義、Chetia が Abdul Aziz 名義のバングラデッシュ Passport を保持して自由に旅行している、ことを含む一連の情報資料をバングラデッシュ側に手交したが、バングラの対応は未確定である。

他の厄介な問題は河川水利である。焦眉の急は、Dhaka で政治的な嵐を呼んできた

Manipur の Barak 河に建設予定の Tipaimukh ダム問題である。水の分流に気を尖らせるバングラを

鎮める為にインドは hydrological data (\*陸水学資料) をバングラと共有しようと申入れている。Moni バングラ外相は「あらゆる方法でテロ撲滅を約したし、現行諸問題を解決することも基本合意した」と語っている。

\* 陸地上の水の性質、現象、分布などの研究学

インド北東部7州への陸路にとって、バングラデッシュが重要であることをインドは知っているから Dhaka との関係に注力しているのであるが、Bangladesh Nationalist Party (BNP)率いる反対派は現政府を売国と糾弾しているので、政治的論争騒ぎで足をとられている。ミャンマーからガス・パイプラインをバングラ経由の話もあったが、バングラ前政権が反対した。然し、本計画はインド・バングラ両国に経済的利益を齎すであろうゆえ、ハシナ政権期間中に再浮上の望みもある。

1971年以來バングラデッシュの実体を決して受入れていないパキスタンは、火事場泥棒を働いてきている。パキスタンから遠隔操作されている反対派 BNP と Jamaat は、現政府は親インドと事ある毎にあげつらいトラブル助長を凶ってきている。ハシナが大きなもの入手しそうだに見えるまでは、ハシナは斯かる反対派と談合の余地を殆ど持てなかった。

アワミリーグとインド国民会議派の伝統的提携、ハシナが過激派に痛撃を加え始めて以來ハシナが過激派のトップ・ターゲットになっていることに鑑み、デリーはバングラデッシュ首相の立場強化に目下努めている。寛大な隣国として振る舞い且つインドの国家安全保障に関し時間をかけて醸成した譲歩で、着実に関係修復に相手を引込んだネパールで試みている方式を、バングラデッシュに対しても注意深く行なう必要がある。

来月、Manmohan Singh 首相がデリーにハシナ首相を迎える際には、インドは両国諸問題に関し大きく譲歩する用意があるが、ダッカのお返しも期待している、と言うメッセージであるべきである。現今、事態は有望である。

### India's Must-Do List

- \* Hasina 政権の安定は印度にとって枢要事項ゆえ、ハシナ政府強化と支援
- \* テロ犯逃亡者の引渡しと、時間をかけてのテロキャンプ撲滅を、ダッカに対する

粘り強い働きかけ

- \* 密輸と不法流民防止の為、国境にフェンス建設とセンサー設置
- \* 水利紛争と国境問題など現諸問題解決の為に back channels への働きかけ
- \* 信頼醸成とアンチ・インド派へ反撃の為に、両国民の交流を含む信頼醸成策

India Today, September 21, 2009

By Saurabh Shukla 記者